

三津浜地区タウンミーティング(要約)

テーマ：三津浜地区のまちづくりについて

令和元年8月22日（木曜日）

【市長】 皆さん、こんばんは。今日は平日の夜で、何かとお忙しかったことと思いますが、このようにお集まりいただき誠にありがとうございます。このタウンミーティングの開催に当たり、三津浜地区まちづくり協議会の会長をはじめ、役員の皆さんのご協力をいただき、誠にありがとうございます。松山市のタウンミーティングですが、私が市長に就任をさせていただいた平成22年12月から開催しており、今回で115回目になります。松山市は、旧北条市と旧中島町を合わせて、41地区に分かれます。市長の任期は1期4年48カ月ですから、当初は1カ月に1地区のペースで回っていこうと考えていましたが、おかげさまで好評となり、1期目の4年間で41地区を2巡りさせていただきました。2期目からは、世代別のタウンミーティングと職業別のタウンミーティングも開催しています。世代別のタウンミーティングは、例えば、高校生、専門学校生、大学生、また人生の先輩や子育て世代の皆さんに集まさせていただきました。また、職業別のタウンミーティングでは、商店街や農業関係者などの皆さんに集まさせていただきました。3期目に入り、広報タイムを取り入れています。タウンミーティングの中でご紹介すると、「市の取り組みがよく分かった」と評判です。現場で業務に携わっている職員が今日も来ていますが、間に広報タイムを入れさせていただきます。また、今日のタウンミーティングで頂いたご意見は、できるだけこの場でお答えして帰りますが、国や県に関係する案件や財政的によく考えなければいけない問題などは、いい加減な返事をして帰るわけにはいけませんので、いったん持ち帰らせていただいて、1カ月をめぐり必ずお返事をする、聞きっぱなしにしない、やりっぱなしにしないというのが松山版のタウンミーティングの特徴です。今日は皆さんと三津浜のまちづくりについて、よい意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 意見交換に移ります。まず、皆さんから聞きたいというご意見が多かった「中島汽船の航路変更」について、都市・交通計画課長から、これまでの経緯と現在の状況をご説明します。

【都市・交通計画課長】 三津浜と中島を結ぶ中島航路については、いろいろとご心配のことと思います。少しお時間を頂き、現在の状況をご説明します。6月27日に三津浜地区で行われた中島汽船の説明会では、「中島地区の急激な人口減少の中、航路を維持していくために経費削減が必要ですが、便数を減らさず、運賃の値上げも避けることを前提に検討した結果、やむを得ず、航路を変更するという決断に至った」との説明がありました。松山市としては、この航路を存続しなければならないと考えていて、これまでも、中島汽船に対して、過去10年で2回、国と県、市で連携し、公的支援を行っ

た経緯があります。また、今年2月に中島汽船から航路変更を検討しているとの報告を受けた以降も、協議を重ねてきました。航路変更を行うには、国の認可を得る必要があります。しかし、その前提として、私たちは、利用者や関係地区住民の皆さんのご理解が必要であると考えています。そこで、まずは、関係地区住民の皆さんの意見を聞いた上で、丁寧な説明を行い、寄港地を三津浜港から松山観光港に変更する一案のみではなく、あらゆる選択肢を考慮し検討するよう、中島汽船に申し入れをしました。このような状況の中、先日、中島汽船から、「航路の変更については、前回の三津浜地区での説明会で出された意見も含め、ゼロベースで再検討している」と報告を受けています。本日はタウンミーティングを通して、ご意見を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

【男性】 三津浜地区の説明会の意見を受けて、ゼロベースの検討をすることになったと言われましたが、中島の住民は今回の航路変更をどのように考えているのか、情報があれば教えていただきたい。それと、三津浜と中島はつながりがあります。昔は町営だったのですが、市営になり、民営になったのですが、離島の航路はこれしかないので、無くなると住民に非常に迷惑がかかるということです。ぜひゼロベースで検討していただければ、中島の住民と三津の住民が一緒になって、検討できればと思います。

【都市・交通計画課長】 三津浜の住民の思いと中島の住民の思いは、共通している点もあれば、事情が異なる点もあると思います。生活が主にかかっている中島の住民はいろいろな意見があると思います。これに関しては中島汽船と連携を密にして中島の住民の意見を改めて、もう一回ゼロベースで聞かせていただけたらと思います。

【市長】 まず先日、中島汽船から航路の変更についての三津浜地区での説明会で出された意見も含め、ゼロベースで中島汽船が再検討している状況です。近々、中島地区の総代会が行われると聞いています。そこで中島汽船から説明があるということなので、松山市としてはどのように説明されるのか、それに注視をしていきたいと思ひます。

【男性】 社長の言い方と今回説明のあった経緯が全部逆です。結局、決まっていたら、市も納得したという形になるわけですね。だから、白紙に戻ったと言ったところで、新聞など報道機関には一切載っていないですね。毎日私も新聞を見ているんですが、白紙に戻った記事が出てこないです。島の人と三津浜の人とは、市と中島汽船に対して疑心暗鬼なところがあります。だから、白紙に戻ったのであれば、新聞などの報道機関に出してもらってから検討してほしいのです。みんな、いつ抜け駆けするのか分からないと、疑心暗鬼になっているので、よろしくお願ひします。

【都市・交通計画課長】 市の内部、関係機関と情報を共有した上で、中島汽船とも連携を密にして、今後の対応を考えていきたいと思ひます。皆さんとの信頼関係を損なわないようにがんばっていきたくと思ひますので、よろしくお願ひします。

【市長】 先ほど、課長から説明しましたが、まず松山市としては、この航路を存続していかなければならないという思いがあります。社長からの説明内容の報告も受けています。重なりますが、近々、中島の総代会で説明が行われるので、それを注視していきたいと思っています。

【女性】 私は、地元の者ではなく、長年住んでいますが、三津浜がすごく好きです。松山市は、まちづくりに取り組まれています、なんだか町が閉鎖していくように感じるところがあります。いろいろな取り組みをしていただける気持ちはあるのですが、港に船が着かなくなるまちで活性化と言っても本当に活性化しているのかという不信感がすごく募ります。三津浜商店街には、よその人が来られて、地元の人があまり活性化していないように思えます。高浜航路やその他の航路を閉じるのは、まちづくりにつながらないと思うので、港を閉鎖しないようにお願いします。それから、形だけの外国航路が来ますよね。あれでは、まちの活性化に結びつかないと思います。そのことを念頭に入れて、三津浜航路をやめないようにお願いします。高浜は別府航路も着かなくなって、港も梅津寺も眠ってしまいました。私たちが小さいころは、海水浴場に行くのをすごく楽しみにしていました。昔は三津浜から発展していったと思うのですが、それが閉じてきているみたいな感じに私は受け取っています。

【都市・交通計画課長】 繰り返しになりますが、中島汽船が利用者をはじめ関係地区住民などの意見に耳を傾けることが必要だと考えています。再度、広く住民の意見を聞く機会を設けるよう、中島汽船に求めていきたいと考えています。

【男性】 6月27日に社長が来て一方的にこのようになりましたと説明を受けました。そこでは、国土交通省の認可も下りて、来年7月に廃止になるという話を聞きました。三津の住民としては、伊予鉄や石崎汽船が赤字になるため、一方的に泊める港を変えるのであれば、便数を東線と西線で1便ずつ減らし、燃料の節約などをしてはどうか。企業も松山市も中島航路には補助金を出しているわけですよね。私が昭和28年に三津浜に出てきた当時は、すごくにぎやかで商店街も元気でした。今はほとんどがシャッター通りです。ですから、この航路を来年7月に止めるというのをゼロベースではなく、白紙に戻して、もう一度松山市と中島汽船でよく検討して、三津浜の活性化に役立ててほしいと思います。

【都市・交通計画課長】 国の認可はこれからで、下りたわけではありません。これから皆さんと話し合いで決めた上で、国に認可申請を行います。

【市長】 中島汽船について、いろいろとご意見を頂きました。最初に申し上げたように、タウンミーティングはすべて議事録も公開しますので、当然、中島汽船にも皆さんの意見は伝わります。さまざまなご意見をありがとうございました。

【男性】 三津浜地区の商店街で商売をしています。昨年から、道路のインフラ整備は国体もあり、いい雰囲気整備され、便利になりました。すごくいいと思います。あとは、電車の面でもうちょっと松山市に頑張ってもらいたいところがあります。三津はすごく中途半端な町です。意外にも、観光港や空港からタクシーに乗り、「三津」と言ったらガックリされます。松山市の玄関口のタクシーがそのような態度をとるのはどうなのかとも思います。それなら、近距離用と遠距離用に分けてもらいたいと思います。また、空港からの三津への時間が計れるインフラを整えてもらいたい思いがあります。三津に来る時間が分かると三津の町がもっと面白くなるのではないかなと思います。そのような志を持ってほしいのです。坂の上の雲を名乗るのであれば、その志がやっぱり必要だと思いますので、よろしくお願いします。

【都市・交通計画課長】 貴重なご意見をありがとうございます。時間を計るなどの交通量調査を都市・交通計画課で行っています。これは持ち帰って内部で検討したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【市長】 先ほど言われたのは電車のことで、空港方面への電車の延伸のことですかね。

【都市・交通計画課長】 路面電車を市駅から松山空港まで延伸させることによるアクセス向上と利便性向上を目的に、愛媛県が学識経験者や交通事業者、行政等で組織する「松山空港アクセス向上検討会」で、平成27年6月から平成30年3月までに検討会を6回、幹事会を11回開催して、実現の可能性について、調査・検討を進めてきました。もともとは、導入の可能性として8ルートありましたが、想定したルートごとに速達性や採算性の観点から4ルートに絞り、道路交通への影響や費用等の比較検討を行いました。その結果、いずれのルートも整備に必要な経費に対して得られる効果がやや少ないことが分かったため、現時点では、整備する予定はありませんが、将来的に空港利用者や沿線人口の増加など複数の要件を満たせば、実現できる可能性があることも確認されました。まずは人口減少対策や観光客による空港利用者の増加に力を入れていき、実現の可能性についてさらに検討を重ねていきたいと考えています。

【市長】 私たちは限られた財布の中で、事業をさせていただいています。お金を入れた以上「Benefit by Cost (ベネフィット・バイ・コスト)」と言いますが、どれだけコストがかかってどれだけプラスがあるかというのを常に考えなければなりません。今やってしまうと「お金を出したけれども、それ以上にプラスになるものが少ない」という調査結果が出ているわけです。昔の記憶で申し訳ないのですが、モノレールをつくと5倍の費用がかかり、地下鉄を掘ると10倍の費用がかかるというのを聞いたことがあります。実際に調査して、お金をかけるだけのプラスがないという状況です。空港とJR、市内方向を結ぶリムジンバスができました。リムジンバスは結構早いです。JR松山駅から総合公園までの延長の計画はあるので、私たちも延ばしていきたいのです。松山空港に坊っちゃん列車が着くようになれば観光面ではものすごくプラスだと思います。でも、つくる場合には沿線の住民にもご協力いただかないといけません。広げる

ために、立ち退きが必要になる方もいるかもしれません。「うちの近くは線路だけ通って乗れないのか」「空港まで行かないと乗れないのか」「総合公園の下まで行かないと乗れないのか」となるので、停留所を設けないといけません。停留所を設けると時間はそれだけかかります。そうすると、リムジンバスが結構早いのです。そういったことから検討すると、今はつくる段階ではない。例えば先ほど申し上げたように、これから空港に降り立つ人がどんどん増えていくのであれば、利用者数に反映するので変わってくるでしょう。しかし、現在はちょっとできない現状です。私から補足させていただきました。

【男性】 私の言葉足らずで申し訳ないのですが、空港までというのは、空港で降りるお客さんのためだけでなく、その周りの帝人とかダイソーとかコスモ石油に通う社員の足にもなればいいと思っています。自動車社会のCO₂問題もあって、低公害な環境づくりができるのではないかと考えて、言いました。志として持っておいてもらえたらありがたいと思っています。今、「駅」と言われましたが、本当は駅周辺が商売繁盛してなかったらいいのです。駅の周りの商売が繁盛することで、もっと地域が活性化できると思います。

【市長】 今まででもそうしてきましたし、これからも大事にしていきたいという話をさせていただきます。松山は路面電車が走っています。全国には市や区、町、村で約1,700の自治体がありますが、その中で路面電車が走っているのは17都市しかありません。100分の1都市の割合しか残っていないので、路面電車は大事にしたいです。昔、郊外電車は森松線がありましたが、廃止になりました。でも、横河原線、高浜線、郡中線は残っています。また、国鉄が走っていたのが廃線になった地域もありますが、松山はJRも走っています。1台1台の車で移動すると自分のタイミングで移動ができるし、荷物が運べるのは車の利点ですが、狭い国土で一人ひとりが車を持って、駐車場を用意するのが難しいのであれば、公共交通を生かしたまちづくりを大事にしていきたいと思っています。私たちも延ばすことができるのであれば延ばしたいのですが、総合的に考えると今は難しい状況です。

【男性】 僕が活性化に良いと思っているのは、三津浜商店街などで夜市を行うことです。三津浜商店街にもっとお店を増やしたり、今流行しているものを活用したりして、夜市を開き、地域住民がもっと三津浜を好きになってもらえれば、もっと三津浜の活性化につながると思いました。

【坂の上の雲まちづくり担当課長】 三津浜地区での取り組みとして、空き家や空き店舗を活用した三津浜チャレンジショップ事業を行っています。これは出店しやすいように、安い賃料でテナントブースを貸し出すことで、新たなお店の出店やユニークな発想を持った人の出店を促しています。過去の実績では、平成27年度に最初のお店を募集したところ、国内では三津浜でしか買うことのできない自転車販売やカフェとして出店

いただきました。この店は、その後も三津浜の他の場所で出店をしていただいています。あともう一店舗、自然派食堂として興居島で採れた無農薬野菜を提供する飲食店なども出店をいただいていますので、ご紹介しました。

【市長】 先ほど、言われたとおりだと思います。これまで、タウンミーティングを重ねてきましたが、41地区それぞれに魅力があり課題もありますが、やはり1番大事なのは、そこに住んでいる人がその地区を好きになってもらうこと、好きであることだと思っています。例えば、皆さんがA地区にお住まいで、B地区の人が「A地区いいよね」と褒めてくれて、A地区のため動いてくれますか。違いますよね。やはり自分の地区のことを好きでないといけないし、好きになってもらいたいと思います。自分がこの地区のために動こうとしないと、多分いつまでも活性化しないと思います。市は、頑張っているところをサポートするのは得意です。今、中学生から「夜市ってどうだろう」というアイデアがありました。実際、中学生だけで夜市をするのは、なかなか大変だと思いますが、三津の大人と「こういうことできないですか」「みんなと協力してできることはありますか」などと話し合うといいと思います。確か、柳井町の商店街は夜市で活性化していますが、夜市というのは一つのやり方だと思います。他にいろんな手法があると思いますが、まず原点は「皆さんが自分の地区が好きである」ことが、まちづくりで一番大事なことだと私はこの9年で思いました。B地区の人が「あんなのここいいね」「私あんなの地区のためにやろわい」とは、まずならないと思います。先ほども言われた「坂の上の雲でしんどい登り坂やけども、目標に向かって頑張っていこう」というのが大事です。今、道後温泉本館の工事に入っています。子どもや孫の世代に道後温泉本館という宝を受け継いでいくために、私たちは作業をしています。工事だと言ってうつむいては、何にも変わりません。だから、今できることを一生懸命やっています。皆さんと一緒に汗を流していきたいというのが私たちの思いですから、まずは皆さんが自分の地区を好きになっていただきたいと思います。

広報タイム 家具固定の必要性

地震時の家具転倒対策について説明しました。

【男性】 三津地区の医療機関で勤務しています。通院される患者さんは、いろいろな疾患を抱えて病院に来ます。いろいろな病気がありますが、特に糖尿病やがんを抱える患者さんがたくさんいます。どうしても糖尿病であれば内服もしっかりですがインシュリンが必要である人や、がんであれば抗がん剤治療が必要である人がたくさんいます。その中には、ご自身の体を治して生活したいという人が多いと思うのですが、本当は治療に専念したいが事情があつて薬が飲めない、支払いができないと困っているケースを耳にします。うちも患者さんに元気になってもらいたい、病気を治してもらいたいと強く思って薬を処方し、「ちゃんと飲んでくれるかな、治るかな」と気にかけている医師が

多いですが、なかなか思いに反して薬の支払いが難しく、薬が飲めなくて結局は病院に来ない患者さんがいます。患者さん自身が安心して生活していくために、こちらもいろいろ考えていますが、松山市としてそのような人に関して何かお考えがあれば教えていただきたいと思い発言しました。

【保健福祉政策課長】 ご質問ありがとうございます。薬代が高いため治療を途中で諦めてしまう人がいるということで、2点ほど医療保険制度を説明します。まず高額になった場合、医療費の全額を払い、あとで自己負担限度額を超えた分が払い戻される高額医療費の制度があります。また、事前に医療費が高額になることが分かっていたら、限度額認定証の交付をご加入の医療保険で受けていただき、医療機関に提出することで支払額を自己限度額までに抑えることができる制度をご利用いただけたらと思います。そのほかにも、災害などの特別な事情で医療費の支払いが苦しい場合や預貯金などの資産もなく生活が大変厳しい場合は、医療費を免除する制度もありますので、ご加入の医療保険にご相談をしていただけたらと思います。そのほかにも、世帯全員がその利用する資産、能力、その他あらゆるものをその最低限度の生活維持のために活用しても最低限度の生活を営むことができない場合には、必要な保護を行う生活保護制度がありますので、松山市の生活福祉総務課にご相談ください。最後にもう1点、無料低額診療事業と言って、経済的理由によって適切な医療を受けることができない人に対して社会福祉法に基づいて無料または低額で診療を行う事業があります。現在、この事業を松山市内で行っているのは済生会病院と生協病院の2カ所ですが、この減免の基準はそれぞれの医療機関で定められているので、各医療機関にお問い合わせいただけたらと思います。なお、その薬代は、病院内の薬局での薬代はこの事業の対象になりますが、病院外の薬代はこの事業の対象になりません。最近、医薬分業で病院外に薬屋ができているところが多いので、このような問題が起きています。現在、国では無料低額診療事業を行う医療機関における調剤の在り方の検討を進めていると聞いているので、国の動向を見守りたいと考えています。

【市長】 相談してもらうために市役所がありますので、遠慮なく相談していただけたらと思います。

【女性】 三津浜花火大会のボランティアに参加しました。花火が打ち上がる側の道は明るくて安心ですが、自宅に帰るときに裏側に回るとすごく暗く人通りが少ない道が多かったので、街灯とかを設置してもらえると、怖くなく自分の家に帰ることができると思うのでお願いします。

【市民部長】 今の話は防犯灯の内容だと思いますので、防犯灯の仕組みを簡単に説明します。防犯灯の電気代は、町内会の皆さんに負担いただいています。特に、三津浜地区はまちづくり協議会の会長さんを中心に町内会の皆さんも積極的に防犯灯の設置にご協力いただいています。申請は町内会長からとなります。確かに暗い所があると思い

ますが、その場所に必要なのかどうかも確認したいので、この会が終わってから、どこが暗いのか教えてください。

【女性】 先ほどの防犯灯のことですが、町内で一応、管理しています。今、LED化が進んでいると思いますが、そのシステムにまどろっこしいところがあり、申請をすると早くLEDになるように変えていただいたらと思います。また電気代ですが、町内会費をかなり圧迫しています。私たちは町内会費で赤字が出ないように運営していますが、街灯費や電気代をもう少し市で補助していただけると、町内としてはありがたいです。

【市民部長】 平成24年度から新しく付けるところには無条件でLED化を進めています。今付いているところで、「暗いな、切れているな」というところは、管の取り換えでとどめています。LED化を進めることで、町内会の電気代の負担も今より安くなります。予算を確保しながらなるべく早い時期にLED化が簡単に進むように対応したいのですが、今の段階は、器具が壊れて球を付け替えても光らない、照度が著しく落ちている、そういった場合のみLEDにしています。電気代の助成は正直なところ厳しい状況のため、LED化を早く進めることでご理解いただけたらと思います。

【市長】 蛍光灯だと年間4,080円の電気代がかかっていたのが、LEDでは2,004円で済みます。LEDは、出始めの時は買うのが高かったですが、だいぶ安くなってきました。また、蛍光灯よりLEDは電気代がかからないので、できるだけ早くLEDに換えていきたいのですが、松山市全体で考えると「まだ使える防犯灯は使わせてください」と思っています。全部変えることができれば、皆さんの町内会の負担も小さくなるので、できれば換えたいのですが、財政的な面から考えると、「まだ使えるものは使ってください」というところです。家計と一緒です。節約できるところは節約しながら、必要なところに投資をしていきたいと思っておりますので、今しばらくお待ちください。

【男性】 私は三津の町をよく回っています。猫がすごく増えていて、空き家や古い家の中で過ごすんですね。それがだんだん増えて場所によっては「餌を与えない」の張り紙をしていますが、やはりかわいそうなのか、あげる人が何人かいます。それで、支所で増えすぎた猫をなんとかする方法があれば、私らは助かります。糞害などは衛生上よくない。私は元町ですが、ちょっと道路から入り込んだところに空き家がたくさんありますが、町内会ではどうしようもできないのです。住宅課とかに調べてもらって、ある程度見てもらえれば助かる人もいます。今、松山市も空き家対策をしていると思いますが、小さい町まで見てもらいたいと思います。

【保健福祉政策課長】 猫対策ですが、地域猫活動というのがあります。これは飼い主のいない猫を地域住民が中心となって餌やりや猫用のトイレの設置をルールに基づいて管理し、不妊去勢手術を実施してこれ以上の数を増やさずに減らしていく活動のこと

です。それについては、松山市保健所の生活衛生課が担当になります。実際に、地域猫活動をしている地域もありますので、大変参考になると思います。

【市長】 命があるものなので捕獲というのはできるだけ避けたいことから、このような答えになっていますが、お困りの人は生活衛生課にご相談していただけたらと思います。

【男性】 私に限らずみんなが思っているので、代表して言わせてもらいました。

【市長】 はい、分かりました。空き家については。

【都市・交通計画課長】 私もこの近辺を自転車で走りましたが、空き家が結構多いという認識はあります。空き家ですが、平成27年5月に国が「空家等対策の推進に関する特別措置法」を施行しました。この空家法では、所有者に空き家の適切な管理を義務付けています。市民の皆さんから管理が行き届いていない情報が寄せられた場合は、さまざまな方法により所有者を特定し、生活環境への悪影響を伝えた上で、是正のための助言や指導を住宅課で行っています。自主的な対応をしていただけない場合もありますが、その場合は、法に基づいた権限の行使を視野に入れた対応も行い、これまでに松山市では12件を老朽化した危険な空き家として認定し、私たちから強い指導を行った結果、所有者に空き家を取り壊していただくなど、5件の是正につながっています。この後、危険だと思われる空き家の詳しい場所を教えていただけたらと思います。

【市長】 三津だけでなく、松山だけでなく、全国で空き家が増えてきています。そのため、このままではいけないということで、空家法が平成27年5月にでき、法に基づいた強制力をもって対応できることになりました。先ほど課長も言ったとおり、5件の是正につながっています。空き家は個人の持ち物です。空き家を取り壊してほしい、何とかしてほしいとなると、税金でするわけです。皆さんが払った税金で、どうして個人の家のことをしなくてはいけないのか。だから空き家に対してなかなか対策が進まなかったのですが、このままではだめなので新しい仕組みをつくろうということになり、空家法ができたわけです。そのため、皆さんが危ないという所があれば、遠慮なく松山市の住宅課に言っていただけたらと思います。市民の役に立つ所で市役所でなければいけないと思いますので、「このような方法あります」とか「このような方法ができなくてもこのような方法はあります」「このようなことをしている地区があります」など情報提供もできますので、どうぞ遠慮なく相談をしていただけたらと思います。

広報タイム 一人ひとりができる食品ロス削減のすすめ

食品ロス削減について説明しました。

【男性】 水族館を三津につくってほしいという話が出ていましたが、どのような状況か聞かせてください。

【企画戦略課長】 昨年、私は観光・国際交流課にいまして、まちづくり協議会の会長

をはじめ三津浜花火大会やまつやま港まつり振興会の皆さんには、大変お世話になりました。三津浜地区の方はすごく地区に対する愛着を持っていて、熱心にまちおこしされていることは存じています。そうした思いの中で、水族館がどうなっているのかという質問だと思いますので、これまでの経緯を説明します。水族館建設の検討自体は、平成28年1月に商工会議所、経済同友会、道後温泉旅館協同組合などのいくつかの団体から松山市に対して「水族館をつくってはどうか」というご要望を受けたのがスタートでした。それについて、松山市にどんな観光施設が必要なのか、水族館に限らず検討した結果、今年2月に先ほどの3団体に対して、「民間としてのノウハウやフットワークを活用して、民設民営でおつくりいただきたい」という回答を差し上げました。それを踏まえて、商工会議所の会頭が会長になり、ほかにも地域の有力企業が入った会が立ち上がり、今年7月に「愛媛・松山の水族館建設を推進する会」が設立されました。建設については、新聞報道等にも一部ありましたが、ひめぎんホール南側を一つの候補地として今、民間主導で推進する会が検討していると伺っています。これからも検討が進んでいくことになると思います。民間主導でお願いしたいということ、私たちは申し上げました。それに民間がお応えいただいて、今、民間で進めているところであることをご報告させていただいて、ご理解いただけたらと思います。

【男性】 補足ですが、今、民間ベースでは道後にすることを承知の上で、もし、頓挫や何かあれば、三津にできればと思っています。三津地区、宮前地区、高浜地区にはお願いして、「こちらのほうも候補地としてありますよ」ということを皆さんに推薦していただきたいと思います。地区の皆さんにご迷惑をお掛けしますが、よろしく願います。

【男性】 三津浜地区の活性化に限定したものではないですが、松山西部地区の活性化という少し広い意味で捉えた考え方を聞かせてほしいのです。高速道路がいろいろ整備されて、松山インターチェンジから松山空港へ高速道路仕様の道路が近々で利用が開始されるということですが、三津浜、さらに高浜、北条、しまなみ海道へという路線で高速道路を延伸させて、時短化といいますか、高速化を図り、よりよい環境になればいいです。私自身が思うのは、「人が動けば金が動く」「物が動けば金が動く」となって、地域が活性化する感覚でいます。松山市単独ではどうしようもない部分があると思いますが、構想的なものでもいいので、聞かせていただければありがたいです。

【市長】 構想はあります。実際に動いていますので、ご安心ください。まず松山市としては、松山インターチェンジから空港や港までのアクセスを早くしたいので、外環状線をつくってきました。とにかく国体の時に多くの人動きます。側道は市で、本体部分は国ですが、国の工事が遅れそうなので、まず先に側道を通れるようにさせていただきました。実はこちらインター東線の国道33号から国道11号までができることが決まりました。皆さんはよく聞かれるでしょうが、国がちょっと厳しいという現状があり

ますから、なんでも要望してはいけないので、まずは、空港の方に延びていく見通しが立った、では、今度はこっちを伸ばしていこうということで、インター東線がつくられることになりました。皆さんご存じのように、南部地域は非常に人口が多いのです。住宅密集地で、国道33号から国道11号に行くには天山に入る行き方をするか、住宅街をうねうねしながら行くようになります。住宅街をうねうねして行くと、ここは住宅密集地帯で、子どもの数も多いため、子どもが不幸な事故に巻き込まれることもあります。そうならないように要望を続けてきて、インター東線ができることになりました。また今月、国土交通省に行って、松山空港から北部に延ばしてほしいと要望してきました。そのような構想は持っていますので、ご安心ください。

【市長】 最後に、総括させていただいたと思います。まちづくりは、その地区の宝を捉えることが大事だと思っています。その地区にないものをつくりだそうと思ったらロスがあります。その地区にあるものが、まず何なのかを捉えて宝を磨いていく作業、『たからみがき』のまちづくりが大事だと思っています。三津は海の魅力や魚の魅力があります。やはり私は、三津の朝市は、大事にしたいと思っています。三津の市場もだいぶ古くなっています。今日は市場の人が来られているかもしれませんが、卸売市場法が変わり流動的になっています。ですから、ソフト面をしっかりとしながら、ハード面もきちっと考えたいと思っています。先日、福岡の新しい市場に行きました。今後、将来ビジョンをしっかりと考え、三津の魚をより活かすような取り組みができればと思っています。まちづくりは失敗するわけにいきませんから、やり方をよく考える必要があります。三津の朝市は、いきなりどんとつくってしまうよりも、まず三津のさまざまな地区の活性化をしていくのが、いいだろうという調査結果が出ました。三津には、いい街並みがあります。松山市では、美しい街並みとにぎわい創出事業補助金をつくり、民間主体で美しい街並みの景観整備やにぎわいを生み出す施設整備を支援しています。三津浜地区ももちろん補助対象の区域になっていて、この補助制度を活用し、これまで14件の整備が行われました。皆さんもご存じだと思いますが、三津浜資料館もこの補助金を使ってきれいになりました。14件の中のいくつかをご覧ください。平成25年12月に、もともと林だった港山の展望台の整備に支援させていただき、平成28年3月に展望できる場所になりました。次に、土壁がだいぶもろくなっていたお菓子屋さんですが、整備によりきれいな街並みになっています。また、壁がちょっともろくなっていた旧石川医院が、平成29年3月にきれいになりました。重松家の家屋もきれいになり、こういう建物があると、やはり町を訪れる人に、「三津いいな、歴史があるな」と思っただけのし、歩くのが楽しくなります。そして、岡田邸も整備されて、アートが施されています。きれいな建物があるとアートをしてくれる人がいらっしやいます。このように、短期・中期・長期で、三津のにぎわいをつくり出していきます。よくあることですが、全部をいきなりハード整備してしまうと、お金がいっぱいかかり、その建

設費用回収のため家賃が高くなり、施設を借りたくても借りることができない。それなら、値段を下げるのか、それでもテナントは入らないと、お金は入れたが建設費用を回収できない状況になってしまいます。そうなると、松山市の重荷になってしまうので、実際に調査して、重荷になると分かっているものは、つくるわけにいきません。では、どうやったらできるのかということ、今はまちのにぎわいをつくっていこうということで、「ミツハマル」で空き家と借りたい人をマッチングしたり、景観整備に補助したりしました。これだけ三津に借りたい、住みたいと思っている人が多いのですから、皆さん、胸を張ってください。松山市41地区の中では恵まれていると思います。「うちはどうのようなまちづくりしたらいいのか」と思っている地区もたくさんあります。三津は、しっかりとした宝が確立されているので、今日、若い人も来られています、皆さんの「さあ、みんなでまちづくりやっぺいこう」という気持ちが大変だと思います。それを今日、再確認させていただいたと私は思っています。新しい動きも出てきています。クルーズ船の話もありましたが、クルーズ船は、全国で誘致合戦です。三津は昔から歴史のある港です。「熟田津（にきたつ）に船乗りせむと月待てば」とあるように、古代から素晴らしい港です。でも、クルーズ船が着くためには、浅いと座礁してしまうため、深く掘らなければいけません。岸壁はクッションを整えなければいけません。そのような海の整備は国や県の担当ですから、国や県がやってくれて、クルーズ船が入って来ることになりました。皆さんにもご協力いただき、受け入れにより3倍の経済効果がありました。ダイヤモンド・プリンセスは今年2回の入港でしたが、来年度に4回来てもらいます。もし、港の整備をしなかったら、おもてなしが全然できていなかったら、「松山は冷たかったし、もうあんなところ二度と行かないようにしよう」となります。全国との誘致合戦ですから、ちゃんと調査させていただいて、効果があることも分かっていますので、来年はダイヤモンド・プリンセスを4回とほかの船も来てもらうようにしたいです。ダイヤモンド・プリンセスよりまだ、大きい船もあります。私たちは、何をすべきかをしっかり見極めながら、やっていきたいと思っています。つつい「これは行政がやってくれるだろう」「市役所がやってくれだろう」と言われるかもしれません。私達も頑張りますが、そのためには皆さんの地域での動きや思いがすごく大事になりますので、その点をお願いできたらと思います。三津の皆さんはよく動かれています。暑期中、花火大会前の掃除から後片づけまでしていただいて、本当に頭が下がる思いです。三津のシーフードバーベキューも頑張っていて続けられていると思います。「やはり、三津っていいよ」という気持ちを私も持ち続けたいし、三津の皆さんにも、持っていていただきたい。思いを共有しながらやっていきたいと思っていますので、これからもよろしく願います。今日は本当にいろんなご意見を頂き、ありがとうございました。

—了—